



TITLE:

第56回物性若手夏の学校(2011年度)  
) 研究と人生の指針-Beyond the  
CoMPaSS of your field.-

AUTHOR(S):

---

CITATION:

第56回物性若手夏の学校(2011年度) 研究と人生の指針-Beyond the  
CoMPaSS of your field.-. 物性研究 2012, 97(5): 927-927

ISSUE DATE:

2012-02-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172057>

RIGHT:

## 講義ノート

### 第56回 物性若手夏の学校 (2011年度)

研究と人生の指針 —Beyond the CoMPaSS of your field.—

物性研究誌に夏の学校のテキストを掲載させていただくにあたり、準備局代表として一言ご挨拶させていただきます。物性科学を専門にする若手研究者の集いである物性若手夏の学校は第56回を今年で迎えることになりました。現在、私たちの生活は色々なモノの恩恵を受けています。モノの特性・構造・機能を明らかにしていく事を目的とした物性科学の歴史は連綿と続き、その結果として出来上がったモノは数えられないくらいあり、なおかつ数えきれないほどの恩恵を人類に対して与えてきました。今皆さんが使っておられる小型の端末や、スマートフォンなどは、そのモノの研究の結晶と言ってもいいでしょう。

モノの恩恵を受ける一方で我々はそのモノについての認識を深く持つ必要があります。地震の脅威による原子力発電所の炉心溶融事故など、モノの恩恵とモノの危険は同じものを扱う以上切り離せないものなのだという事実を改めて認識させられました。そんな中で、やはりモノについての研究、つまり物性科学というものはこれからも我々に恩恵と危険を与え続けるわけで、これについて十分な知識を持って接していく必要が在ります。どんな応用ができるのか？ どんな性質があるのか？ そんな基本的な疑問が重要です。半導体などの進歩により私たち人類の生活は飛躍的な進歩を遂げました。これからも便利なものが現れてくるでしょう。その研究・開発に携わるのは他でもなく、この夏の学校に参加される今は若手の研究者の方でしょう。そんな若手の研究者に知識と絆、そして情熱を持ってきてもらって、それを増やして持って帰ってもらおう、そのような趣旨で今年の物性若手夏の学校は運営されております。

物性若手夏の学校は、大学院生、学部生を中心とした若手研究者たちが貴重な交流の機会を持てるサマースクールとして50年以上も続いてきました。各分野の一流の先生方に物理学の基礎的な部分から少し応用的な話を講義していただくことで、物理学の各々の分野の基礎的な部分を理解していただきます。そして参加者が発表する機会も設けられており、今後の研究活動発表の練習のいい機会にもなります。昨今の新規分野、特に生命科学と物理学と化学の境界領域の開拓を考えてみても、異分野の研究者との交流及びネットワーク形成は非常に重要なことであり、これからの物性科学のさらなる進展のためにも必要不可欠な事であると判断します。知識・絆・情熱はこれから活躍する皆さんにいずれも求められてくるものです。この物性若手夏の学校でみなさんはそれらを持ち寄り、互いに高めあってそしてそれらを持ち帰っていただければ幸いです。

古来、未開の大陸を目指す航海士・冒険家たちは、コンパスを頼りに自らの航路を決め、そして大海原に挑戦しました。これから、研究という大海原に繰り出して、未知の発見を目指す皆様にとってこの夏の学校が羅針盤の役割を果たしますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、京都大学基礎物理学研究所を始めとする研究機関や財団、学会からの毎年の後援や援助、および各協賛企業からの支援、そして快く協力してくださる講師の先生方のご好意によって夏の学校が56回目を迎えられたことを心より感謝いたします。今後とも物性若手夏の学校へのご理解とご協力を賜れますよう、お願い申し上げます。

第56回 物性若手夏の学校準備局代表 楠田 良介